

日銀神戸

## 支店長の視点

別所昌樹氏



30年前の12月、新入行員の私は、初の支店勤務で静岡への発令を受けました。東海道路・山陽新幹線沿いの各支店に向かう同期と一緒に東京駅をたった車内で、「静岡は地震が心配だね」と言った同期がいました。その同期が赴任したのは神戸支店でした。

阪神・淡路大震災は、多くの人命と建物・インフラが失われた痛ましい経験でした。そして、困難な環境の中で多くの方々が生命や生活基盤の確保、そして復興に向け尽力されたことを、当地の様々な方から伺いました。日銀神戸支店も、その一つでした。人々が安心してお金を使えるようにする。中央銀行の使命は、つまるところこの一文に集約されると思っています。災害時にも金庫を開け、

### 震災30年 使命を改めて心に刻む

現金という「お金」を供給することは私たちの基本的な役割です。金融機関の預金もまた、「お金」です。被災した状況でも、人々が金融サービスを受けられる状況が確保されなければなりません。

当地に来て、当時の日銀神戸支店長とお話する機会がありました。感じたことは、「人々が安心してお金を使えるようにする」という基本に忠実であることと、前例のない状況では柔軟な判断を果敢に行う勇気が求められる、ということでした。デジタル化が進み、「お金」のかたちは変わっていくかもしれませんが、この基本と勇気の大切さは変わらないでしょう。

日銀神戸支店では来年1月17日、「震災30年特別見学会」を行います。ご興味のある方は当支店のホームページQRコードからご応募ください。震災で失われた尊い人命を悼むとともに、中央銀行の使命を改めて心に刻む、そんな日にしたいと考えています。

